

教職課程を履修して

岸本 小雪

1. 教員を目指したきっかけ

私は、「大学に行くなら、何か資格を取りなさい」という両親の言葉で教職課程を履修し始めました。軽い気持ちで教員免許の取得を目指しましたが、将来は民間企業への就職を考えていたように思います。しかし、3回生の夏、周りの友人が就活に向けて動き始め、私も大学卒業後のことを考えなくてはいけなくなりました。そのときに心のなかでなんとなく「公務員になりたい」という気持ちがあったので、公務員試験も視野に入れつつ、教員免許を取るなら、と教員採用試験を受けることを決めました。

「教員になりたい」と思うようになったのは、アルバイトでの経験が大きいように思います。2回生から個別学習塾でのアルバイトを始めました。小・中学生に何かを教えることは今までなく、初めのころは苦戦することばかりでしたが、私なりに工夫して説明していくなかで、生徒が理解してくれたときはとても嬉しく、教えることの面白さを知ることができました。3回生からは放課後児童クラブのアルバイトを始めました。学童を利用するのは、低学年が多く、塾でのアルバイトとはまた違った難しさがありました。楽しむだけでなく、ときには注意することも必要で、どう関わっていいのか試行錯誤ばかりでしたが、私なりに真正面から児童生徒と向き合い、できることを精一杯取り組むようにしていました。その後、4回生で引っ越しをするためにアルバイトを辞めることになったのですが、そのときに手紙を書いてくれたり、泣いてくれたりした子がいました。私も寂しかったのですが、それと同時に、こちらが真正面から向き合うと子どもたちも同じように向き合ってくれることが分かり、とても嬉しく今までが頑張ってきたことが報われたような気持ちになりました。このときに「子どもと関わる仕事に就きたい」と真剣に考えるようになったんだと思います。アルバイトでは、小学生と関わるが多かったのですが、取得を目指している免許は中学校・高等学校の2つだったので、より基礎を教えることのできる中学校の教員を目指しました。

2. 教員採用試験に向けて

教員採用試験に向けて行ってよかったと感じたことは2つあります。1つ目は、一般教養を基礎から勉強し直したことです。大学に入学してから、国語以外の科目は全くと言っていいほど勉強していませんでした。だから、3回生の2月頃から少しずつ、中学校向けのテキストを使って復習を始めました。社会・理科を中心に繰り返し解くことで、広く浅くの知識をつけることを意識しました。一般教養の試験において、1つ1つの科目の割合は少ないですが、確実に点数を取るために、幅広く勉強することは重要だと思います。

2つ目は、友人と集団討議、模擬授業の練習をしたことです。6月にあった集団討議、8月の模擬授業、どちらも直前にサポート室や空き教室を使って、模擬練習を行いました。自分ではできているつもりでも客観的に見てもらうことで、お互いに良かったところや足

りないところを知ることができました。また、私は一人で勉強しているとすぐに集中できなくなってしまうので、授業後や休日に集まって友人と勉強会を開いていました。

このほかにもサポート室では、先生方にグループワーク・面接の練習や、教職教養の授業をしていただきました。何度も練習に付き合ってください、試験だけでなく気持ちの面でもたくさん支えてくださいました。

3. 最後に

軽い気持ちで履修し始めた教職課程でしたが、4年間でさまざまなことを学び、とても充実した大学生活になりました。こういった風に思えるのは、サポート室の先生方、教職の先輩方、一緒に頑張ってきた友人がいたからです。本当にありがとうございました。

兵庫では、今年度から3年生受験、採用地域を限定した特別選考など、さまざまな取り組みが始まっています。私自身、この制度を利用させていただき4月から地元で働くことができるようになりました。どんどん人数が減ってしまっている地域だからこそ、できることを見つけて、私なりに生徒と向き合って取り組んでいきます。これから受験するみなさんにも、それぞれの目標を見つけて頑張っていってほしいです。